

おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成15年
8月号

毎月23日発行
通巻396号

(題字 矢追日聖)

★発行日 平成15年8月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)44-0015
★印刷 大倭印刷
★定価 1部 250円
年間購読料3,000円(送料共)
★振替口座 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



ミズオオバコの花 奈良市 川端一弘さん撮影(文・7頁)

昭和63年8月26日 東光大祭法話

死後の世界は自分が作る (下)

法主 矢追 日聖

先祖さんと子孫の交流

先祖さんを助けるとか、地獄に落ちてる人を助けるとか、言葉では言います。あるいは死んだ人が浮かばれてないとか、よう言います。どこに沈んでるのかわらんけど。死後の世界は、何も、そんなものとは違うんやな。

生きていた時にどんな立派な宗教でやってたとしても、死後の世界においては、宗教団体は関係ないねん。例えば、浄土信仰をしているとして阿弥陀さんに一生懸命お願いする。日蓮宗や創価学会の人やったら法華信仰で「南無妙法蓮華経」と言う。もしそれを唱えたら、死後の世界で助かるというのやったら、非常に気楽なんです。

お経を見ても、そんなことはどこにも書いてあらへん。例えば、阿弥陀の三部経を読むと、「南無阿弥陀仏」と言うたら助けてやるとは書いてない。しかし但し書きがついとんねん。自分自身が真面目な行いをした時には助けてやると言うんやな。不真面目なやつたら念仏をなんぼ唱えてもあかんと言うのや。全てのお経がそんなものですよ。日本のお坊さんが、何でも良いんや、念仏を唱えたら助かるとか説いてるけど、お経自体には書いてないんです。

お経には、悪因悪果、善因善果という因縁因果を説いてあるんです。悪いことをしていたら、なんぼ「南無阿弥陀仏」と言うても、阿弥陀さんはお前が悪いことをしておいて何言うてるねんと横を向

きますよ。

因、縁、果、報、その法を説いているのが仏教の教えなんです。だから、自分が悪いことをしてあれば、死んだら自分で自分を責めるわけや。その代わり、人を助けてあげるとか、難儀してる人に功德をしてあげるとか善根功德を積んでおけば死んだ後の世界で自分自身を助けることになる。何も阿弥陀さんが出てきて助けるのと違うんやで。

そういうのが霊界と現界の関係なんです。

肉体を持つている人間と、肉体を持ってない人間は交流が出来ます。その代わり、もし霊界で先祖さんのご機嫌が悪かったら、子孫が病気になるたり家がややこしくなったりということもあるよ。

けれども、それは崇めているのとは違う。先祖さんの苦しんでおる心が、子孫のところへ波長として出てくると、その家族の中に同じように心配することが起こってくるんやな。また逆に、先祖さんが喜んでいたら、子孫には喜ぶことが出てくるから幸せに円満にいけるわけや。

そういうように先祖さんと子孫とは因果関係がある。だから、回向供養をする必要が出てくるんです。今日の東光大祭も、そのためにやっています。

今、皆さんは肉体を持って来てはるわけやけれども、その背後には肉体を持たない何万の人が来ております。例えばお父さんお母さん、そのまた親とずーっとたどっていくと、ものすごい人数になるでしょ。そうすると一人が今日ここへお出でになったら、その縁によって何万かの先祖さんが全部集まって来ています。

そのような意味で、私はいつも斎庭さいばでお供養しています。今日はお昼頃、雨がパラパラと降っていたので、斎庭に行くのを止めて家の中でしたらええわと思ってました。私は素直やからね。外でしてほしかったら天気にしたらええやないかと言っ

ていたら(笑)、ちよūd一時半過ぎたら日が差してきました。これは結局、外でせいということやなと思つてね。

二時きつちりに斎庭で始めました。拝殿のお参りも二時から始まつたと思つています。今日は北の方から涼しい風がずーつと、フワツと吹いてて、こんな涼しい日なかつたわ。今日は来ている人皆の心意気がええねんな、先祖さんが皆、喜んではるから、自然現象もそうなるんやなと思つてね。

皆さん、卒塔婆を書いてくれます。あれ、一枚の卒塔婆に名前を一つ書いてあつても、三つ四つ書いてあつても、全然関係ないんです。霊界はコンピューターと同じなんです。私が斎庭でお参りする時に、一枚一枚の卒塔婆を手握つて、スツと差し出した時に、字を見なくても瞬間的に、書いてある人が出てきます。霊界は波長やからね。いろいろ戒名を読まなくても出すだけ、それでも良いんです。霊界という所は便利です。

皆さん、形のある人間が集まつて来ていると、霊界の人も出て来ます。普通、霊界人同士は何万の先祖さんがおつても、横の関係では親しく話したり遊んだり出来へん。肉体の持っている人間とだけ交流が出来るねん。それで、うちでは年に一回、祖霊祭としてやつております。

思いやりの心を持つてほしい

今日は皆さんのご先祖さんが出て来て、礼を言うてはります。それだけに皆さんの家の中で、何か喜ぶようなことが出来てくるはずですよ。これは現世利益の話しと違いますよ。拝んだから幸せになるとか、そういうのではない。自分自身が先祖さんを喜ばそうと思つて心を持つこと、それが功德を積むことになるんやな。

分かりやすう言うたら、思いやりの心を持つことやわね、これが一番大事なんです。思いやりの心、それだけで良いんです。皆がもつと思ひやりの心を持つてほしい。百万のお経を唱えるよりも、自分が人に対して思いやりの心を持つことや。お経あげんかて極楽行き、決まつてる(笑)。

死後の世界は自分が作るということ覚えてほしい。神さん仏さんが作つた所へ、自分がポツと入つていくのと違うねん。霊の世界へ入ると瞬間に、自分で作つた世界が出てくる。

地獄の門や入口やそんなものは、私が見てきた霊界にはありません。ところが地獄のことを書いたお経がある。これは、見る人によつて違うんです。自分の持つている波長によつて写るものが違う。テレビでも波長によつて写るものが違うのと一緒です。霊界のことを書いてある本もたくさん出てますけど、書いている人自身の見た霊界だから、それは絶対的なものじゃないんです。私は自分の見た霊界について話しておりますが、それは信じてもらつても疑うてもらつても、どちらでもかまいません。

一番大事なのは、生きている世界、生きている時なんです。思いやりの心を持つてほしいことは、身近なことと言つたら、例えば夫婦めづは仲良うせな、いかなのやし、親子も仲良うせな、喧嘩けんわなんかしつたらあかんよということやねん。

それから物に執着して、人のことを考えないで、我さえ儲けたらええという、そんな餓鬼みたいな気になつてもあかんねん。それよりも自分が健康で世間並みに飯を食わしてもらつて生活出来る、その最低の線を引いて、これで有難いと思つて暮らしておつたら、その人自身の徳で、自然に財産も出来てくるやろし、子供だつてだんだんと成長してきます。そこはもう自然任せ、天任せ。

そんな意味で、思いやりの心をお互いに持つてほしい。世の中は自分一人じゃないんです。そのまた向こうに、霊界という肉体を持たない人間の世界があるということです。

肉体を持つている我々の家の中ではお金を中心とした生活をしているけれど、霊の世界では心だけの生活をしているんです。その両方がお互いに調和を取らないといけない。アンバランスになつてくると、霊界の人も不幸なら、現界の人も不幸なんです。

先祖と共に暮らす実感を持つ

個人の肉体の中にも二本の自律神経がある。これがアンバランスになつたら病気になるのと一緒です。家庭の中で、思いやりの心を持つて、仲良くしていく。それと同時に、ご先祖さんは肉体を持たないけれども、日々、自分らと共に生活しているという実感を持つて暮らしてほしい。

朝、目があったら一番先にご先祖さんに、「おはようございます」。これは、年のいった人やから大切にしないといかんねん。朝はお茶でも供える。自分が飯食う時は、飯を供える。生きている人に対するのと同じ気持でお供えしてあげるということが一番大事です。

そうすると、霊界の人に喜びが出てくるし、自分の家庭の中も喜ぶことが出てくる。しかし、先祖さんが何かの形において苦しんでおられたら、その苦しい人の波長というものが子孫に来るから、子孫の中に苦しむような現象が起こつてくる。それをよく世間の人は、あんだとご先祖が浮かばれてへんからやとか、先祖供養や施餓鬼をしたらええとか言うんや。

けど、何も子孫が憎くて祟つてくるのとは違う

んです。先祖さんは、子孫がかわいいんやから、皆仲良くしてほしいと思つてるんや。

それでも死後の世界で、先祖さん自身が苦しかつたら、誰かに助けてほしいから、それには縁のつながつた子孫に頼みに行かないと仕方ない。こんなに苦しんでるんや、助けてくれへんかと、向こうから言うてきてはるんやな。そうすると、ちよつと頭ひねつたらか、身体を病気にしてやろうか、まだ気がつかへんか、ほな肺をいじくつてやろうか、まだ気がつかんのか、となる。それがいわゆる祟りとか言われることなんです。

先祖さんをなんぼ祭つても拝んでも、家族自身が喧嘩していたら何にもならへんやで。先祖さんは余計苦しまるわ。だから普段から先祖さんを大事にして、思いやりの心を持つて仲良くしていくということが、一番大事やと私は思います。

何もこのお祭りだけやなしに、子孫があるということはお先祖さんのお陰なんだから、その有難さや思つて、日々の生活の中でご先祖さんを大事にする。大事にするということを、物を供えてお経をあげてもらふことだと思つていたらちよつと違うんやな。自分の心からのお供養でないと。

物一つを供えるにしても、そこに心を持つて供えないとね。毎日やつてることやから、時間がきたから「ハイッ」というようではあかんねん。それでは相手に通じへんねん。「お前、じゃまくさいんか」と言われる（笑）。生きている先祖さんが居てはるといふ気持でお仕えてほしい。

それが出来たら、皆幸せになつていくねん。

社会平和の根本

個人の問題から、もう一つ大きなことについて言いますと、昭和二十年八月十五日に終戦になり

ました。それまでに日本の軍人さんが、大陸や南方、海や陸やで大勢死んであります。慰霊をしなさいといけないというので、一応、国を挙げて靖国神社にお祭りしてあります。それは何も靖国神社でなくてもかまへんのやけど、戦争で死んだ人達の心を慰める、拝んであげるといふことは、生きている人間との交流なんだから、それは非常に良いことなんです。

ところが新聞やテレビを見てみると、私的に参るとか公的に参るとか、あるいは参らんとか、言うてる。死んだ人の霊魂に対して、そんなアホなことを言うてる時代だから、日本の国も天候も塩梅いかへんのや。真夏やと思つているのに梅雨みたいなことになつてくるし、いろんな災害や事件が起こつて人が死ぬ。

靖国神社へお参りするのが悪いとか良いとかいう問題やないんです。戦死した人達は、やつぱり国のことを思つて死んでるんです。そうしたら生き残つた我々は、直接間接にその人達の恩恵をこうむつているんです。終戦後に生まれた人であっても一緒です。日本の国が、現存してここにあってということも、過去の人の力によつてなんだから、特に戦争なんかで犠牲になつた人は、自分の意志でなく公の命令によつて動いて命を捨てているんやから、皆が心からお参りしてやらないといかん対象者なんです。

皆さん方、個人の家庭にもつながつてますよ。靖国神社だけに戦死した人の霊があるのと違います。皆さん方の家庭にあるんです。

どんなことがあつても、ものの考え方として、霊界における人と現界の人達は仲良くせなあかん。調和をとらんといかんです。それが公的参拝がどうの私的参拝がどうのとか争う、そういうような心の持ち方では、死んだ人達が皆、不満になり

ますねん。霊の世界でゴニャゴニャと動き出すから、あつちこつちから災害が起こります。

そうなると、社会の皆が困るんやから、戦争で死んだ者であろうと、個人の家庭の先祖さんであろうと、同じように霊の世界の人達と我々生きている人間とが仲良う交流していかないとけない。これが社会平和の根本やと、私は思う。

個人の健康でも、心と肉体が調和していなければ病気になる。心が不安定で心配事が起これば、神経性の胃潰瘍にでもなるし、精神的になんぼ良くても肉体をムチャクチャに使えば病気になる。健康であるためには、心と肉体両方の調和をとらなければいけないんです。

本当の社会の平和も、我々生きて肉体を持つている人間と、肉体を持たない人間が、お互いに仲良うしなければやって来ないんです。

しかしこれは私が言うだけであつて、百年や二百年経つてもめつたに実現はしませんよ。

今から三千年、五千年、一万年前の古代社会においては、肉体を持つている人間が、日々の生活何一つやるにしても、一々神さん（肉体を持たない人間）を拜んでいました。神さんの心を受けつぐ巫女さんみたいな人がおつたんです。その人達の言うことによつて、うちの部落はどうしようこうしようということを決めた。今年は雨が多いうから気を付けようとか、雷が落ちるから気を付けようとか、みな神さんが言うてくれるわけや。

霊界人と現界人が一つになつて暮らした時代を祭政一致と言います。神さんの心と人間の心が一つになつてお互い幸せにいく。古代の社会はそうであつたと思う。何言うたか、神さんが中心、神祭りが中心なんです。今でもアマゾンの奥地やとかに行つたらそうやと思ひますが。

それが今は、あまりにも人間中心になつてきて

いるから、反面、我々の苦勞するようなことが起こつてくるんです。

本当に幸せでありたいという心があるなら、先ずご先祖さんを大事にするということ。それと同時に自分自身の夫婦、親子、祖父母、生きている家族の人達が、本当に思いやりの心を持つて、仲良く生活してもらうのが、皆が幸せになつていく一番の窓口なんです。

そういうようなことを心得て、今年一年も幸せに暮らしてほしいと思います。そして来年の東光祭にも、皆さん方にお目にかかれたら有難い。

「おどり」は「おたる」

明日は東光大祭に付随して弥栄踊りをやります。世間で言う盆踊りやねん。「弥栄」ということは皆さんが病氣もなしに元気で榮えていくという、日本の昔の言葉なんです。「いやさか」と言うねん。京都の祇園に、八坂神社があるやろ。あれは元々は、弥栄神社やつた。日本の国に悪疫が流行つた時に、あそこで鉦を立てて御祈願した時に、悪疫が無くなつたというので、弥栄神社という名前やつてんけど、後の人が文字を変えたんです。明日は神さんのご機嫌が悪かつたら雨やし、良

こもれる魂魄の地をたずねて（十五）

「おどり」は「おたる」

後醍醐帝の忠告道一 兼 田 隆

かつたらお天気になつてくれるやろ（笑）。皆が寄つて来て、ワーツと踊つてると、ご先祖さんが喜んで浮かばれはんねん。先祖さんと子孫が一緒になつて喜ぶお祭りや。

「おどり」の「お」は、日本の言葉では、「ころ」ということです。丁寧にも言う時、物を供える時、「お」を付けるでしょ、真心という意味です。「どり」は、発音上変化してるけど、「足る」ということです。「おたる」は心が足りる、満足しているということ。

心がみじめやつたら踊られへん。アホみたいに喜んできたら踊れる。そやから「踊る阿保に見る阿保」言うねん。明日の晩は、阿波踊りやないけど、皆アホになつて踊つたらいいんや。私も踊ります。こんなこと好きな方やねん（笑）。踊れるのも生きている間だけやからね。死んだら出来へん。私はいつもそう思つてます。だから、皆さんも出来るだけ参加して下さい。

今日は、くだらないことをしゃべりましたが、皆さんね、仲良うして、思いやりの心を持つて下さい。これが私の皆さんに対してのお願いです。そして社会がみんな平和になつていくように祈りたいのが、東光大祭の趣旨でございます。

どうも暑い時、ご静聴ありがとうございました。

南北朝の動乱期に南朝方として活躍された人々の中に三木一草と評せられた方々がいます。建武

の中興の時に後醍醐帝に仕え、命も惜しまず戦い散つていった忠臣達の事で、伯耆名和（二名和長年）・結城親光・楠木正成・千種忠顕の四人のこ

とです。

*

名和長年は、現在の鳥取県名和町の豪族で、天皇が隠岐島に流された時、島を抜け出す手引きをします。後に船上山という所にこもり諸国に倒幕

の兵が決起するのを待ちます。その後、建武の中興が成ると功労者として新政権の要人となり権勢を振るいます。

余談ですが、以前この項で取り上げた、足利尊氏と対立する護良親王を天皇の命令で捕らえたのはこの名和長年と結城親光の二人です。

その後、建武の中興は足利尊氏の離反により失敗し、名和長年は京都内野の戦いで討ち死にしてしまいます。現在の上記区大宮通一条の公園に名和長年戦没の地碑(写真)があります。京都市内は昔より何度となく戦場地となつていますが、周



りは住宅や店舗が立ち並びこの地碑以外、当時を偲ぶものは見当たりません。生まれ故郷の名和町には、嫡男義高(泉州堺で戦死)、三男高光(近江西坂本で戦死)とともに三人五輪として墓碑が存在し、近隣には名和神社や一族郎党の墓などがあり、当時の豪族としての権勢がうかがえます。

*

結城親光(宗広の次男)は終始、後醍醐方として戦い抜きます。最後となった京都での戦いでは降伏したふりをして家来十四名と共に、箱根の竹之下での合戦の折に足利方に寝返つた大友貞載の軍勢三百騎に突っ込み、これを討ち取り全員壮烈な戦死を遂げます。

父の結城宗広は親光戦死後も吉野にあつて南朝

勢力再建の献策をします。その実行の為、自ら伊勢より東国に船出しましたが、暴風雨のため吹き戻され、三重県津市の結城神社辺りで病没したとも自害したともいいます(写真)。現在、春先には梅花を觀賞するために観光客が訪れ賑わう場所です。

楠木正成は河内長野の豪族で、後に湊川の戦にて戦死されます。子供たちも南朝方として仕え、同じ運命をたどります。(平成14年2月号参照)

*



千種忠顕は公家出身で、後醍醐天皇の側近として隠岐島配流、船上山、六波羅攻撃と終始お供をされた方です。恩賞として与えられた三重県菰野町の地には、その名残として千種城址、菩提所として禅林寺があります。その後、他の忠臣達と同じ運命をたどり、比叡山きらら坂にて討ち死にし比叡山の中腹辺りに千種忠顕卿戦死之地碑(写真)

*



があります。

◇

『太平記』に登場する人物、舞台は吉野を中心に多く点在するのですが、私は今年の元日に、岡山県倉敷市の五流尊灌院という所を初日の出と同時に訪れました。ここは修験道の総本山で、役行者が修行をし呪術を学び秘法を会得したところと伝えられています。また後鳥羽上皇の皇子達(冷泉宮頼仁親王・桜井宮覚仁法親王)がこの地で亡くなられています。

この一角に児島高德公誕生之地と書かれた石碑があります。児島高德とは、元弘の乱の失敗によって隠岐島に配流される途中の後醍醐天皇を、船坂山に奪い返そうと画策した人物です。岡山県津山市院庄まで後を慕つて行き、桜の木に「天、乞(はなれ)踐を空しゅうするなかれ、時に范蠡(はんれい)なきにしもあらず」と書きしるしたとの事です。「天は乞踐のような囚われの後醍醐天皇を空しく殺し奉つてはならない、時に范蠡のような忠臣があらわれないこともない」という意味です。児島高德はその後も終始、南朝に属し戦い抜き、東北兵を糾合して



京都に攻めあがるうとしましたが失敗、それ以後、歴史の表舞台より忽然と消えてしまいます。児島高德の墓碑(写真)は、赤穂市坂越の大避神社の背後の、小高い山の中腹で瀬戸内海を一望できるすばらしい場所に存在します。

「隆家」の頃の法主 (4)

矢追 隆義

兄は無事、立正大学予科へ入学することができた。予科とは三年間、同校で一般教養を学ぶ期間で、当時は何れの大学でも大体同じであった。三年間を無事修了すれば、希望する学部への進学資格を得ることになり、立正大学では仏教学科、史学科、社会科学、哲学科、文学科等の中から選ぶことになる。

後日、父より聞いた話では、母は、兄が予科を修了すれば必ず仏教学科へ進むものと信じ、身内の者が「一人でも得度をすれば、その家族が七代浮かばれる」とかで非常に期待していたらしい。

ところが母の思いとは裏腹に、兄は史学科を選んでいた。この事実を知った母は、入学時に世話になった住職に対し何と説明しようかと、かなり苦しんだとのことである。兄も、母の気持はうすうす感じていたらしいが、裏切つてまで何故史学科を選んだのか？

これには少なくとも、久保常晴という学生と出会ったことに起因しているように考えられる。彼は北海道で小学校の教員をしながら、考古学の研究に打ち込んでいたらしい。故あつて立正大学に入学することになるが、持ち前の研究は熱心に続けられていたとのこと。そんな彼と兄とが、ふとしたことから急接近することになる。彼の持参していた石器・土器、鐘、板樋・道標等の拓本、さらにこれらから読み取る金石文字を通じての古代への研究から、時には同伴して発掘調査にまで出掛けるようになったのである。歴史の古い大和の

地に生まれ、学び育つた兄だから、古代への関心が何処ともなく呼び起こされたのではなからうか？

やがて紀元二六〇〇年、国家の大事業として神武天皇の聖蹟顕彰が実施されることになるが、この時、兄は『金鶏の黎明』なる論文冊子を出版し、日本書紀に「金鶏発祥地鳥見霊時」とある聖地は、大倭神宮に在りと、文献・金石文字・出土品・伝承等、あらゆる資料を集積し、当時の有識者、久末邦武博士、山田梅吉・森口奈良吉氏等を相手とし、一歩もひかず論戦を張れたのも、久保氏から手引きを受けた考古学の知識があつたればこそで、運命とは実に不思議なものである。

いにしえびと 古人の心を心として

林 修 三

思えば人の世の歴史というものは、その大半が人の争いの歴史そのものの様に見える。言わば修羅界の如き、人と人との軋轢(あつれき)のエネルギーの中で、自壊し滅び去つても仕方のない人類が、よくも今まで、何故に生き延びてこられたのだろう。

私には、やはりそこに、歴史の陰に隠れて、その自壊エネルギーを和らげてきた、もう一つの人の歴史があつた様に思える。遠く長曾根の大王のその様に。そしてその影の如く、人の争いの歴史を裏で調節し、「この世」と「あの世」をささえてきた人々の流れは、私達の目には見えないながらも脈々と今日まで続いてきたのではないか。

時の波蕩(その四)

遙かの昔、八岐の大蛇を退治されたスサノオノミコトは、何故か心晴れないまま鬱々とした日々を送つておられた。そ

こぼれずみ 宝塚市 森田 好子

犬と暮らし始めて十年になる。飼主に似てか似ずか、十才の柴犬にはいたく、アイソが良。タクシーで毎日病院に通う高齢者を、車が見えなくなるまで見送つては、回りの方にほめてもらい、マンションの中で「ちよつと年のいったアイドル」にしてもらつてゐる。法主さんのテーパー起しを始めるのと離れた部屋からやつて来ては、そばで座つてゐる。その内、聞きながら眠つてゐる(イヤ、目は閉じていたけど聞いていたと、主張するかもしれない)。法主さんも犬をかわいがつておられたみたい。ウレシイネ。と言うと、まっすぐな目をこちらに向けてうなずいていた。

これは退治しても退治しても、まだまだ続く人の世の怨念の渦、その果てしない負のエネルギーの遣り場のなさについてであつたかもしれない。

古代琴を爪弾かれ、ミコトの心を安んじておられたクシイナデヒメの前で、ミコトは、日本で初めてと言われる御歌を残される。

世に有名な、
八雲たつ出雲八重垣 妻ごみに
八重垣つくる その八重垣に
の御歌である。

そして現代、そこに秘められた人の心の奥深い闇を嘆かれた天神の御歌に応える如く、百七十二年の時空を超えて、ヒメの返歌が大倭によりみえる。全一なるものを学びなさいと。

あさみどり
雲の八重垣わけ出でて
われ世に生ずるそのときは
八百万代の神だちが
集い来たりて大倭
天の沼矛のたつときぞ
あらたな、古人の心を心とした時代がはじまる。

表紙写真によせて

水田で見たミズオオバコ

奈良市 川端 一弘

数年前にお盆の休みを利用して、奈良市の山間部へ植物観察にでかけたときに撮影したものです。小さな谷間に幾枚かの田が開かれ、水路にはミズギボウシ、水田にはヒルムシロが見られた場所で見つけたミズオオバコです。

水辺にはイトトンボが盛んに飛んでいる谷間でした。因みに私が子供の頃(半世紀近く前)には、鏡池でもイトトンボやアメンボウ、ゲンゴロウ、ミズスマシなどの昆虫が見られ、大阪で育った私にとって夢広がる素晴らしい池でした。堤には法主さんが牛を繋いだという松が一本あり、ときどき木の間からオニヤンマが現れたりしました。谷間はそうした光景を思い出す比較的自然が残っている地でありました。比較的話は、農業の使用のためか他の昆虫類が少なく感じられたからです。

ミズオオバコは水中にオオバコに似た葉を拡げて生育する单子葉植物です。写真のミズオオバコの葉はオオバコよりひとまわり大きいですが、近くにはまだ花を付けていないさらに大きな葉をもつものが育っていました。水深により葉の大きさが変化するそうです。花は八月頃より咲き始め十月頃まで見られるようです。

私はこのときに初めてミズオオバコを見たのですが、以前は田圃の雑草だったそうで、よく見られたようです。最近では西大寺の北、秋篠町で見つけられた方があり、大倭の近くでは大和田町の水田水路で生育しているという情報があります。奈良県の古い記録では『大和植物志』に奈良南郊、

平和村とあり、大阪市立自然史博物館の資料ではより具体的に稗田村(1932)が記録されています。奈良盆地には普通に見られたようです。しかし、近年は環境の変化のために次第にその姿をみることは困難になってきているようです。

私が五十の手習いで学び始めた分類学は、このような地域の植物の分布を記録すること、これを植生、フロラといい、明らかにすることは分類学の重要な役割の一つであります。

近頃レッドデータブックや絶滅危惧種という言葉葉を皆さんよく耳にしませんか。レッドデータブックとは、最初に人為的な理由のために絶滅の危機に瀕している種を報告したときに、その報告書の表紙を赤色にして危機的状況を表現しました。これに因んで、このような報告書をさしてレッドデータブックといいます。

このレッドデータブックの作成には分類学を学んでいる人達の日頃の地道な記録が集積され、その報告を基に科学的数値処理がなされて判定がされています。分類学が大切な学問分野であることを理解していた、だけかと思えます。

私が分類学を学びはじめたときに「川端さん分類学などはもう時代遅れの学問ですよ」と教授された方がおられました。確かに戦後の日本の大学では、分子生物学が脚光を浴び、もう分類学は時代遅れであるとされました。そこで質問を受けるのは「新種が見つかりますか」という問いであります。私は質問の背景を知っていますから大抵は笑って「可能性はありません」と返答します。そのような意味で日々観察を続けているのはありませんから、こう答えています。しかし、最近は大分でも分類学が見直されているようです。

平成4年の国連環境開発会議(リオデジャネイロ)で開催され当時は新聞を大いに賑わしましたが

もうお忘れでしょう)で「気候変動に関する国際連合枠組条約」と「生物の多様性に関する条約(略称生物多様性条約)」が採択されました。日本は「生物多様性条約」が発効した平成5年にこの条約を締結し(アメリカの父ブッシュ大統領が自国の利益を損なうとして締結を拒否したのは有名な話)、その第6条により平成7年に日本の「生物多様性国家戦略」を策定しました。昨年にはその見直しが行われ、新たな「生物多様性国家戦略」が環境省により発表されました。人間活動に伴う環境の変化から生物多様性の保全をいかに図るかが各国に求められているのです。

しかし、その内容は各省のきれいな事を羅列したもので、日本の現状では到底施策にならないものですが、ともかくも「気候変動に関する国際連合枠組条約」の「京都議定書」の取り纏め役国としてはこうしたものが必要なでしょう。

日本の国家戦略として纏められた生物多様性の保全が奈良県においてどのように実現されているかについては、奈良県立自然公園である矢田丘陵自然公園の整備計画を見れば一目瞭然です。森林保全課が整備計画を施行していますが、生物多様性の保全を全く理解していない事業です。

生物多様性の現状を知るときには分類学の知識が必要であり、このことは多少とも関心がある方には理解していただけたらと思います。日本の大学で分類学の空白期間が長く続いたことは、日本の生物多様性の保全にとって不幸なことでした。

環境省が改訂したレッドデータブック2000年版では日本に生育する植物の約3割ほどが絶滅のおそれのある危惧種に選定されています。

かつては田圃の雑草であったというミズオオバコが今はどれほど見られるのか一度水田を観察されてみては如何でしょうか。

あじさい日記

第276回大倭会文化行事 秋の一泊旅行のご案内

～壇ノ浦に平氏滅亡の跡を訪ねる～

日時 平成15年10月26日(日)～27日(月)

行き先 下関方面

お泊り 下関海峡を望むホテル

定員 50名程度

費用 3万5千円程度(Aコースの場合)

申込み 10月5日まで、世話人へ
次のコースで参加募集します。

Aコース 新大阪・福山間は新幹線を利用、
他はバス。

Bコース ホテルへ直行、2日目団体行動。

※9月14日(日)祝会で勉強会を行います。

世話人 湯浅芳郎(電話0742-48-3389)

7月12日 午前10時半から奈良パークホテルで邑交會。
7月13日 祝会。初参加者の方が3名おられました。
7月14日 加瀬和夫さんが、近くを時々散歩するが、他の神社と雰囲気がちがうので大倭神宮について知りたいと来邑。
7月15日 大倭神宮月次祭。
7月17日 拝殿正面の電柱が撤去されました。法主様も生前気にしておられたそうです。
7月19日 広島島の原爆の火を燃やして続けているという「平和の火」を各地を通って運んでいる桑木崇充さんが、邑に立ち寄られ、また27日からは高橋良美・見田瑛子さんも「笑う富士山フェスティバル」に向かいました。

夜、大倭会館で東光大祭・弥栄踊りの打ち合せ会。
7月20日 交流の家で、日韓のカップルの結婚を祝う集いがありました。阪神大震災の被災者としてF.I.W.Cを知りワークキャンプに参加するようになった西村麻里さんが、韓国キャンプで韓基南さんと出会ったというお話です。
7月23日 朝、『むすびの家物語』を読んで大倭紫陽花色に心を持ったという東京の笠哲哉さんが、拝殿に座っておられました。古神道を研究しておられるとのこと。交流の家に泊まると8月1日まで滞在。
午後、大倭大本宮月次祭。
7月24日 李章根さんが大倭町で「登美鍼灸院」を開院。
夜、本紙編集会議。法主様の音声、映像などの記録をデジタル化して保存するために、出版局にIT部を作ることになりました。関心のある方は声をかけて下さい。

8月1日 大倭印刷(株)では3回目となる大倭グループのオリジナル・カレンダーの平成16年版を作り始め、『おおやまと』紙や他から写真を選定しました。次回平成17年版に向けては皆様の作品を募集しますとのこと。ふるってご応募下さい!

8月3日 紫陽花色の清掃祝に



は、今夏最高の暑さの中、邑人、大倭会、F.I.W.C等たくさんの方々が参加してくれました。(拝殿前でお参りをして開始)
8月5日 栃木県の陶芸家の中野英樹さん来邑。東光大祭終了までありがたい助っ人です。
8月6日 大倭神宮月次祭。
8月6・9日 広島と長崎の原爆投下時刻に、拝殿の大太鼓が打ち鳴らされました。
8月7日 邑の吉澤満・都史季

夫妻に初孫! お二人の長男、弘行夫妻に男の子誕生です。
大倭安宿苑では
7月26日 長かった梅雨もタイミンク良く明け、あすか駐車場でも夏祭りを行いました。
8月1・7日 来年度就職希望者の職場訪問で39名が見学。(菅原園)

7月30日 喫茶サークル。食堂を工夫して喫茶店にいる気分を味わってもらいました。
(須加宮寮)
7月15・17日 出前をとる人、「花惣」まで行く人に分かれてお楽しみ食事をしました。(長曾根寮)
8月2日 家族会の協力で「くら寿司」への食事会。
(八重垣園)

7月16日 俳句の会。「小物買う若き尼僧や夏衣」
7月23日 コーラス喫茶MOM
Oで昔懐かしい童謡を練習。

あじさいの箱チャリティサークル 第12回作品発表会

と き/平成15年 9月12日(金)~13日(土)
10:00~16:00 (13日は15:00まで)

ところ/大倭会館

作品/書道・生花・押絵・編物・紀州手
毬・俳句・協賛作品
活動紹介(歴史・英会話・語り)

お問合せ 湯浅(TEL 0742-48-3389)

お願いとよびかけ

法主様ご帰幽満10年を記念して大倭大本宮で計画しておられる法主様奥津城の整備造成に、何卒各人の分に応じご協力をお願いします。

大倭会会長 中西 正和

1. 奈良信用金庫 学園前支店 普通0302639
□座名 大本宮特別整備基金
中西正和
2. 郵便振替口座 00900-6-241836
□座名 大倭奉賛会

来たる10月18日(土)、19日(日)に大倭を会場にして、賑栄い塾を開催する予定です。詳しくは次号でお知らせします。

賑栄い塾予告

- * 月次祭(大倭神宮)
9月6日(土) 大倭神宮にて午後2時より。
- * 大倭会主催第四一八回祝会
9月14日(日) 大倭大本宮拝殿にて午後2時より。
- * 月次祭(大倭神宮)
9月15日(祝) 大倭神宮にて午後2時より。
- * 月次祭(大倭大本宮)
9月23日(祝) 大倭大本宮拝殿にて午後2時より。

あんない